

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

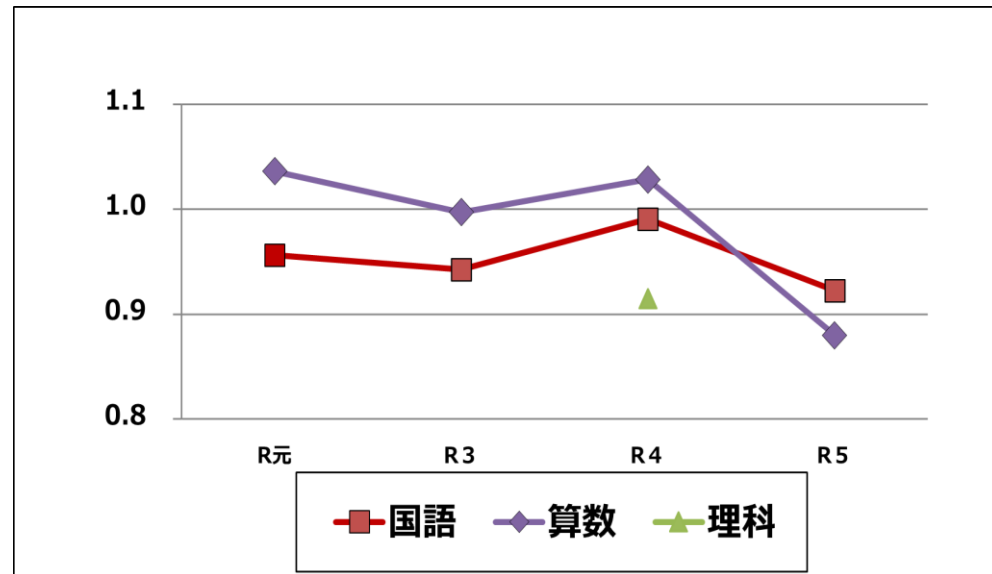
令和5年10月6日
枚方市立蹠西小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等により、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせいたします。本校でも結果を分析し、全職員で授業改善を行ってまいります。また、児童の生活習慣が、学習への意欲や定着に大きく関係することが調査結果から示されています。引き続き、保護者の皆様にも、ご家庭での児童の過ごし方について、ご協力をよろしくお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年度、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→資料を読み取り、異なる考えを比較し、相違点を見つけて文章で表現することについては成果が見られたが、図表やグラフ等を用いて表すことについては課題が見られた。

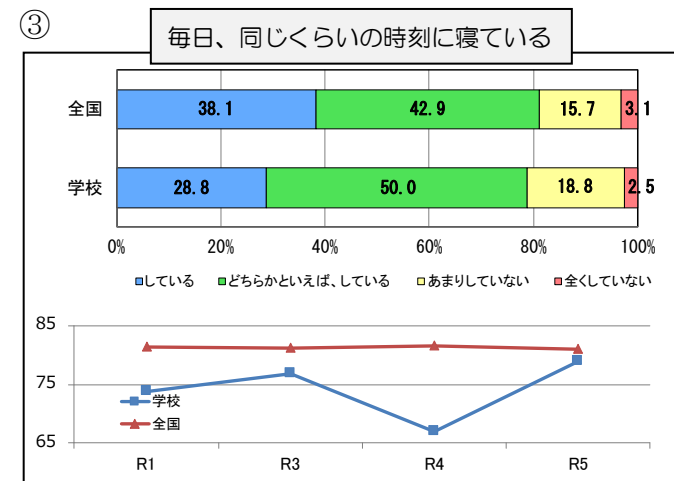
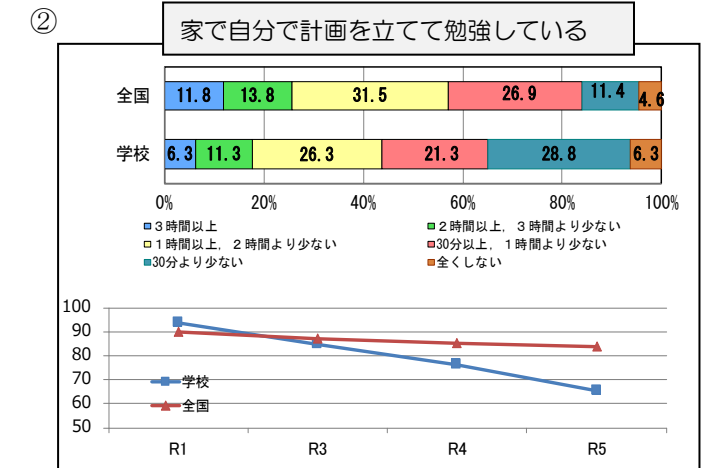
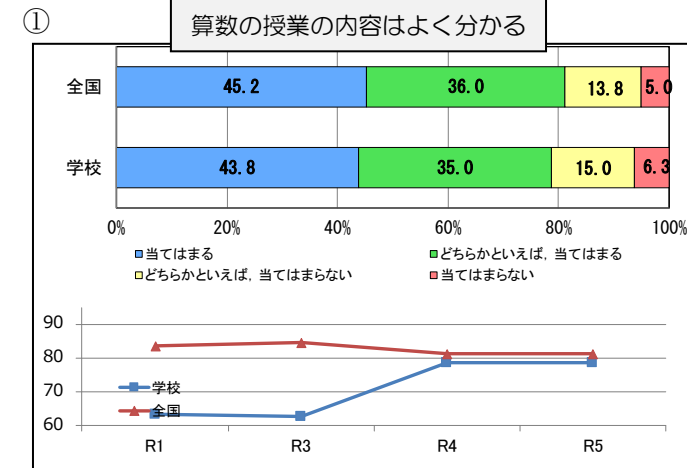
○算数について

→伴って変わる二つの数量に関する変化の特徴を適切に読み取る問題においては成果が見られたが、複数のグラフから違いを読み取り、言葉や数を用いて記述する問題については課題が見られた。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

質問紙調査の結果

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

<質問紙調査結果の概要>

- 「算数の授業の内容はよく分かる」の項目では肯定的な回答が約78%という結果になっているが、本校の学力状況調査における平均正答率は全国平均を下回るようになった。「わかった」内容を定着させていくことが必要である。
- 「自分で計画を立てて勉強している」の回答は、全国平均よりも低い結果となった。1日の学習時間は、15分×学年の時間以上が望ましいとされており、今以上に自分で計画して学習する力をつけていくことが必要である。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の項目では、肯定的な回答が約78%という高い結果になり、また「朝食を毎日食べている。」という設問の肯定的な回答が約92%であった。保護者の皆様が日頃から子どもたちの生活習慣をサポートして下さっている結果と考えられる。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。
- 読書時間に関する項目では、全国平均よりも低い結果となった。本を読むことで、語彙力を充実させたり想像力を養ったりすることができる。朝読書や読み聞かせ、絵の本広場等の取組等を通じ、引き続き読書の推進を図っていく。

まとめ

全国学力・学習状況調査の結果から、国語・算数ともに正答率が全国平均を下回ったことは今後の課題として挙げられるが、無回答率が下がったことから、児童は粘り強く学習に取り組む姿勢が身につけていることがわかる。学習内容の基礎基本の定着に向け、今後も家庭と協力しながら取組を行っていきたい。

生活習慣については、アンケート結果から子どもたちが健康的な生活を過ごしている様子がうかがえた。より良い生活習慣を身につけることで、児童の学習意欲や集中力は向上する。引き続き、家庭と協力しながら、生活習慣の形成に取り組んでいきたい。

本校では子どもたちの読書活動の推進に向けて、今年度、朝学習において本を読む時間を設定している。子どもたちが読書を通じて想像力を養い、豊かな人生を歩む一つの手立てとしていきたい。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

目的や意図に応じ、自分の考えをまとめる

① 答ささんは、学校の授業では、学校ボランティアの人たちを全校生しようにするために、自分の考えを決めてインタビューすることにしました。次は、「答ささんの考え」と「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えます。

② 答ささんは、インタビューの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを「インタビューの様子」の「答ささんと山本さんの発言の中から書き取ったこと」を、書き出した言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にとめて書くこと、書き出した言葉は、字数にはふくまれない。

③ 「答ささんの考え」

学校ボランティアの中で、傘下校でお世話になっている見守りボランティアの方は、朝早くから大変です。どうして続けているのか、私の通学路に立ってくださっている答ささんと山本さんにインタビューして、お二人の思いを聞いてみよう。

「答ささんの考え」

答ささん、こんにちは。いつも私たちの傘下校を見守ってくださり、ありがとうございます。今日は、お二人からお話を聞きたいので、ぜひよろしくお願いいたします。

お二人は、毎日何時間お話を聞かれていますか？

答ささん、毎日二時間です。でも、私は、子供たちに安全に傘下校をしてほしいと思っています。

山本さん、私は、最近この地域に住むようになり、見守りボランティアを始めました。慣れないうちは大変ですが、今では元気をもらっています。

答ささん、そうですね。元気をもらっているという点について、もう少し詳しく教えてください。

「インタビューの様子」

答ささんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを「インタビューの様子」の「答ささんと山本さんの発言の中から書き取ったこと」を、書き出した言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にとめて書くこと、書き出した言葉は、字数にはふくまれない。

	正答率	無解答率
本校	72.2	6.3
全国	70.2	14.3

(考察)

この問題では、インタビューを通して分かったことを整理して、自分の考えをまとめることが求められる。そのためには、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を見つけ、共感した内容や納得した事例を取り上げて、適切な表現に直す必要がある。

本校の児童は全国の平均より2ポイント上回っており、普段の国語の学習において「文章を読み、感想を書く。それらを共有し合う」活動を行うことで、このような力を養えていることが結果としてうかがえる。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

伴って変わる二つの数量の関係について考察する

① 同じいすがたくさんあります。

② はるまさんたちは、いすをかたづけするために、下のように重ねています。

1しゃくのいすの高さは、45 cmです。下のよういすを重ねていくと、高さが変わります。

いすの数と高さの関係を、下の表にまとめます。

いすの数(しゃく)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	45	51	57	63	A

表の中の A にあてはまる数を書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	93.7	0
全国	93.5	0.8

(考察)

この問題では、伴って変わる二つの数量について、変化の特徴を読み取り、表の中の求める数を見つけることが求められる。

本校の児童は、全国の平均正答率を上回っており、変化の規則性を見つける力を持っていることが分かった。また、見つけた規則性を他の数値にも当てはめて考えられていることがうかがえる。

【課題】

図表やグラフなどを用いて、自分の考えを伝える

① 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて、文章を書こうとしています。次は、「川村さんの文章」の「川村さんの考え」を、条件に沿って自分の考えを書くことに課題があることがうかがえる。

「川村さんの考え」

米作りは、田んぼの準備から始まり、田植え、育秧、稲刈り、脱穀、乾燥、籾の選別、米の仕上げまで、大変な作業です。中でも、稲刈りには、稲刈り機を使うと楽ですが、稲刈り機がないと、手作業で稲刈りをする必要があります。稲刈り機を使うと、稲刈りが楽ですが、稲刈り機がないと、手作業で稲刈りをする必要があります。稲刈り機を使うと、稲刈りが楽ですが、稲刈り機がないと、手作業で稲刈りをする必要があります。

② 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の「川村さんの考え」を、条件に沿って自分の考えを書くことに課題があることがうかがえる。

「川村さんの文章」

6月24日
「思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。このまま雑草が増えたら米のしゅうかくに悪いようではいけないかと心配だ。」

6月30日
「雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えている。これくらい増えているのは雑草の量が増えている。調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。調査日 7月1日～15日」

7月19日
「学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが足りていないと考えられる。雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。」

7月20日
「農家の石山さんのお話」
「雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。雑草が多いと、いねが病気になることがある。農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。」

7月21日
「学校でできる解決方法」
「雑草取りの回数を増やす。雑草取りの人数を増やす。」

	正答率	無解答率
本校	19.0	2.5
全国	26.7	7.1

(考察)

この問題では、「米作りの問題点と解決方法」を書く場面が設定されており、条件に合わせて自分の考えを書くことが求められる。そのため、図表やグラフなどを用いて自分の考えが明確に伝わる文章を書く必要がある。

本校の児童の正答率は19%と低く、図表やグラフなどを用い、条件に沿って自分の考えを書くことに課題があることがうかがえる。

【課題】

日常生活の場面を式に表すことを通して問題の解決を図る

② けんたさんの学校では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことになりました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学校の人数は23人です。

下のような、はば120 cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。

けんた
種類ごとに分けて、並べる。

あやね
1人分ずつ並べる。

	正答率	無解答率
本校	41.8	1.3
全国	56.7	4.0

(考察)

この問題では、3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方を式や言葉で表し、計算の結果を基に判断することが求められる。

全国的な平均正答率は56.7%だったものの、本校の正答率は41.8%と低い結果となった。ここでは、基礎的な計算技能の定着を進めていくことと、算数的に解釈のできる日常生活の場面を授業の中で設定し、計算の結果を基に問題の解決を図る問題を用意していく必要があることが分かった。

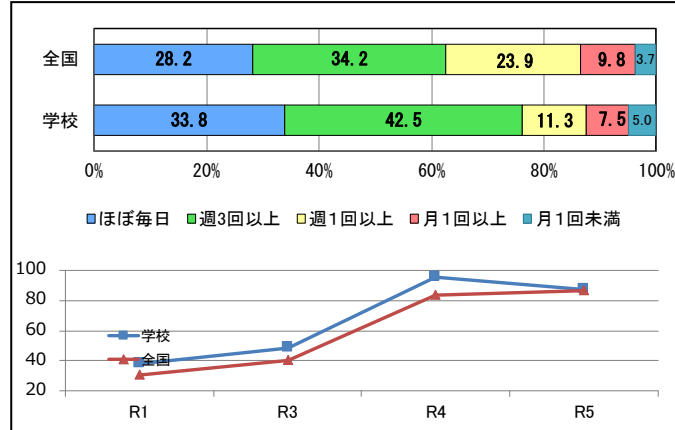
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

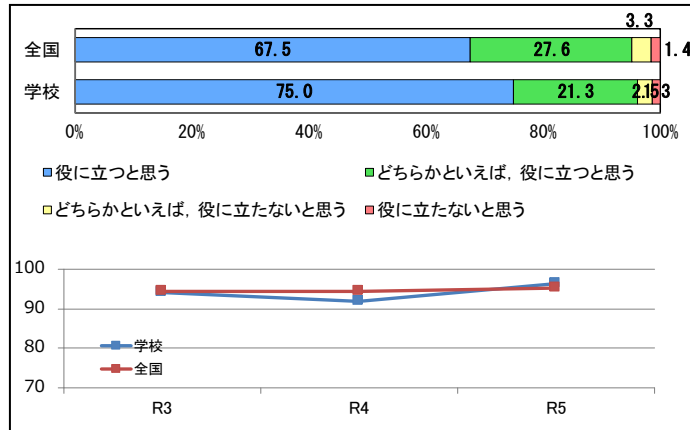


【成果のあった項目】

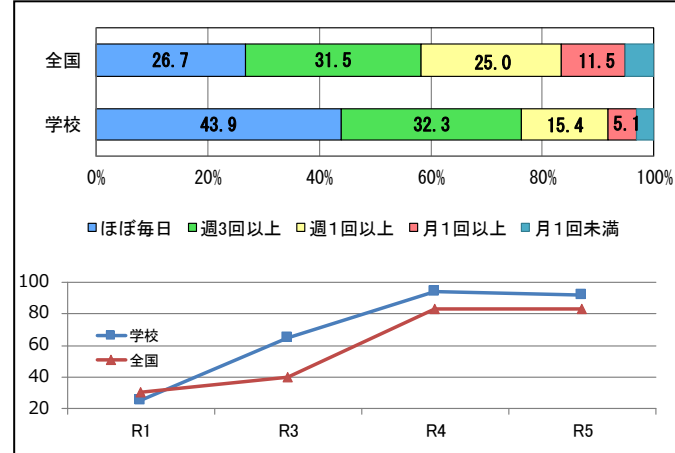
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



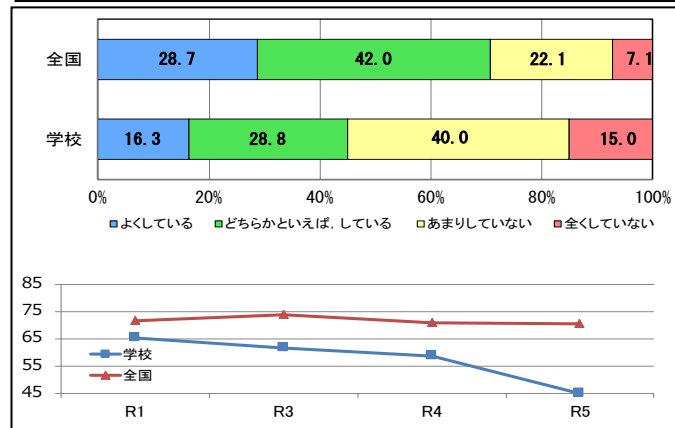
(考察)

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では、肯定的な回答が約96%と非常に高い。この項目は、令和3年度より肯定的な回答が常に90%を超える高い水準を保つことができている。普段の学習の中で、タブレットが情報の検索や発表のツールとして定着しているとともに児童もその有用性を実感できていると思われる。

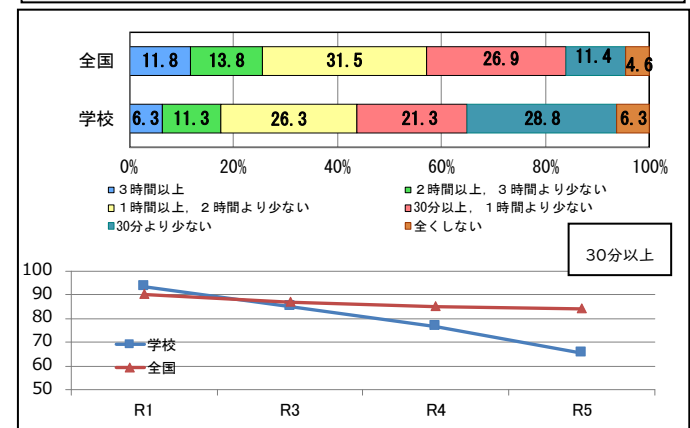
また、校内研究における国語の授業改善により、児童は話し合い活動にも熱心に取り組んでおり、友達との直接交流とICTの活用、どちらの良さも活かして学習できていると考えられる。

【課題が残った項目】

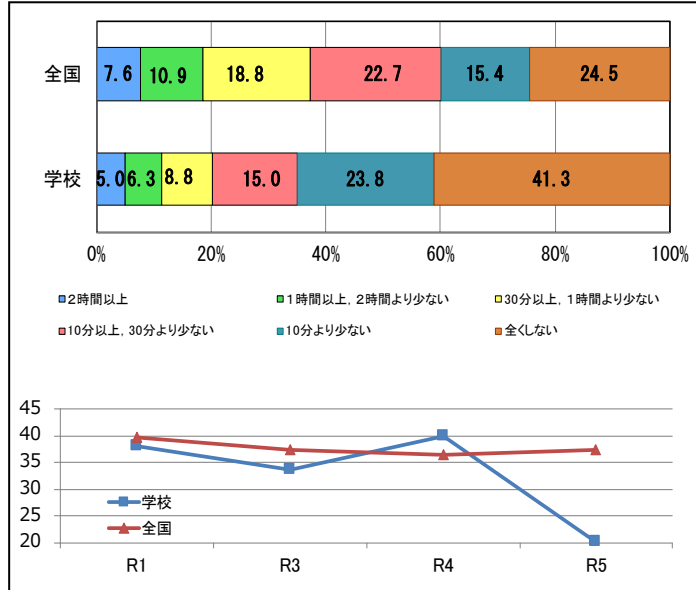
自分で計画を立てて勉強している



授業時間以外、普段(月～金)1日の勉強時間



学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



(考察)

「自分で計画を立てて勉強している」という項目においては、肯定的な回答が全国平均と比べて低かった。また、「学校の授業時間以外に普段(月～金)1日あたり30分以上勉強する」という項目でも「30分以上勉強する」という回答が低く、児童が計画を立てて学習に取り組み、学習時間を確保できるようにすることが必要である。授業の内容については「よくわかる」と回答している割合が多いことから、授業内容は一定理解することができているが、反復練習や興味を持ったことについて学びを広げることで、理解した内容を定着させたり、応用力を高めたりするまでには致っていないと考えられる。今後、授業における内容理解の徹底を図るとともに、家庭学習では宿題等の課題にしっかりと取り組み、それに加えて、自主的に学習していく習慣も確立していくことが必要だと考えられる。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- Hirakata 授業スタンダードに基づき、授業の中では「課題に向き合う」「自分の意見をもつ」「意見を交流する」「意見や考えを基に話し合う・発表する」「考え、分析し、判断する」時間を効果的に取り入れます。
→「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業を行う。
- 算数の授業では、授業を通して「分かったこと」を活用して類題や関連する問題を解く時間を確保します。
→活用に関する学力向上につなげる。
- 国語の授業では、校内研究での授業改善により、授業において興味を持った内容について、児童が調べ、それを友達と共有できる「協同的な学習の時間」を授業の中で設定します。
→児童の実態に沿った必然性のある学びにつなげる。
- 校内研究授業及び研修会、教員同士の交流の場、相互授業参観等、教員の取組の充実を図ります。
→教師の授業力向上を図る。
- 読書に関する行事や取組(読書ノート・朝読書・読み聞かせ・絵の本広場等)を実施します。
→読書量を増やし、語彙力の充実と想像力の涵養を図る。

(2) 家庭学習について

- 「家庭学習の手引き」に基づき、引き続き宿題の定着を図っていきます。具体的には、宿題や課題をやり遂げ忘れず提出できるように指導していきます。また、授業と家庭のシームレスな学びを実現するため、家庭とも協力しながら、より効果的な家庭学習をすすめていきます。
→家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。
- 1年生からAIドリル navima を活用し、基礎的な知識・技能の定着につなげます。
→ICTの活用能力の育成をめざす。
- 3～6年生で取り組んでいる自主学習を充実させていきます。児童が興味を持った内容について積極的に調べたり、学校での学習内容から更に広げて学びを進めていったりすることができるように指導していきます。
→「自主的に学ぶ力の育成」をめざす。